



2013.9.

## 9月 ちとせだより

神戸YMCAちとせ幼稚園

多くの親はわが子に、「失敗させたくない」「悲しい思いをさせたくない」という思いが強く、「出来るだけのことをして守ってあげたい」と考えているようです。そんな親は「子どもの全てを知りたい」という思いが強く、子どもの行動だけではなく、子どもの心の全てまでも知ろうとします。そして、子どもの世界に入り込み、親としては監視しているとは思っていなくても、子どもは常に親の目を意識して過ごすこととなります。その結果、子どもは何をするのにも親の判断と同意を求めるようになるでしょう。

幼稚園でも、常に先生が子どもたちに課題を与え、子どもはその課題に答えて、評価を受ける保育が続けられるのであれば、子どもたちは「先生、次は何をするの?」「はい、次はこれをして下さい」、「先生、これで良いの?」「はい、それで良いです」といったやり取りが中心となった保育になります。そこでは子どもたちは自分たちで楽しみや喜びを見つけ出すのではなく、先生から与えられる課題に対するより高い評価を求めて幼稚園での時を過ごすこととなります。

しかし、「子どもの仕事は遊び」と言われる意味は、「遊び」という子どもが自らの興味や関心から選び、工夫してその楽しみを広げていくことそのものが成長につながるということなのです。ここでは、与えられた課題(遊び)ではなく、自らが選び挑戦していく課題(遊び)が存在することとなります。そんな子どもの遊びも、大人から見れば、「何がそんなに楽しいのか」と思うような幼稚で稚拙なものであったとしても、子ども自らが見つけ、創り出す楽しみは、子どもにとっては何事にも変えがたいものなのです。そしてそんな経験を通して、子どもは自分で考えて遊び、行動するために必要な自信を獲得し、また様々な能力を高め、まさしく生きる力を獲得していくのです。

現代の子どもの自尊感情が低いとはよく言われることですが、この自分自身に自己肯定感を持つことが出来るためには、「自分は自分のままでよい」とあるがままの自分を自らが認めることが出来なければなりません。そして、そのためにはまず自分自身が親から無条件に愛され認められているという安心感がなければなりませんし、他者からの評価ではなく自分自身が、「これでよし」と思える気持ちを、他者との比較ではなく、自分が好きな遊びを通して積み重ねていくことが大切なのです。

もうすぐ幼稚園では運動会が開催されます。練習を何度も繰り返させられて、「早く運動会が終われば良いのに」と思って迎えるのではなく、「早く運動会の日がやってこないかな」と楽しみに迎えることが出来る運動会でありたいと思います。大人の満足のためにはではなく、毎日の幼稚園での遊びの積み重ねが運動会に繋がり、子ども自身の喜びと楽しみにあふれた運動会こそ、本当に幼児期にふさわしい運動会ではないでしょうか。